

平成30年度 第1回 常磐公園の緑を考える集い

～市民協働による公園管理～



平成30年6月21日撮影
自然更新ゾーンの実生
(ハルニレ)

1

I はじめに

1) スケジュール

平成28年度 (3回開催)

平成29年度 (3回開催)

- 現在の常磐公園について
- 自然環境調査報告
- 常磐公園における管理方法等の検討

平成30年度予定

第1回

○常磐公園の管理作業の実践

今回

第2～3回

○市民協働による維持・管理の実践内容

来年度以降の開催内容は今年度の状況・進捗
程度から決定いたします

2

3) 本日のプログラム

- 14:00 開会 (5分)
- 14:05 オリエンテーション (5分)
- 14:10 説明・現地視察 (10分) 現在
 - 樹名板の作成について
 - 自然更新ゾーンについて
- 14:20 ヨモギの移植 (40分)
- 15:00 オオハンゴンソウの除草 (20分)
- 15:20 意見発表 (5分)
- 15:25 今後の予定 (5分)
- 15:30 閉会

3

前回の概要

1) 説明・協議事項

- 自然更新ゾーン及びブッシュの改良
- 市民協働による維持管理

2) 意見交換

- 自然更新ゾーンは基本的に見守ることで異論無い。
- ブッシュについて、ヨモギを植えてカンタンを呼ぶ下地を作るのはよいと思う。
- 樹木の点検・診断には専門的知識が必要で、各々の樹木の特性がわからないと判断は難しい。
- アズマヒキガエル・ツチガエルの駆除はすぐに対策が必要である。

4

1 樹名板の作成について

旭川市では、現在市民の皆様には樹木や自然に愛着を持っていただけるよう、常磐公園にて、樹齢などを表記した樹名板の作成を検討しています。

1) 樹齢の推定

生長錐という道具を使用し樹齢を想定することが代表的

デメリット
樹木の中心まで穴を開けるため菌の侵入のおそれ

採用方法（検討中）

有識者と協議しながら、切株を利用して幹周や年輪から樹齢を推定することを検討しています。

提 案

切株を測定し、樹齢推定の作業を「常磐公園の緑を考える集い」の活動内容としたい。

5

2 自然更新ゾーンについて



今年度も新しくハルニシの実生が確認されました。



今後の対応

・前年度に引き続き実生が確認されたことから、このまま現状を維持し見守ります。

6

3 ヨモギの移植について

ブッシュゾーンにカンタンを誘うため、エサとするヨモギを植えていきます。

ヨモギについて



背丈の高いものよりも、低いものを移植します。



日当たり等の違いにより葉や茎の形状が多少異なりますが、常磐公園ではこのタイプの葉はほぼ全てオオヨモギです。

7



極力根を残して掘り取ります。

ヨモギ掘取り場所

ヨモギ移植場所



8

4 オオハンゴンソウの除草について

位置図



昨年度除草場所

イワミツバも群生しています。

フランスギクも確認されています。

H26
約100株群生

今年度も昨年度とおなじ場所を除草対象箇所とし、オオハンゴンソウの根絶を図ります。

9

オオハンゴンソウの特徴

オオハンゴンソウはキク科オオハンゴンソウ属に分類され、北アメリカ原産で、明治中期に観賞用として輸入されました。寒冷な地域に多く分布し、道内ではほぼ全域に生息域を拡大しています。

花：開花期は7～10月。ほかのキク科植物と同様黄色の舌状花が集まって頭状花を形成します。



葉：羽状に5～7裂し鋸歯がある特徴的な形状

繁殖特性：昆虫により受粉される虫媒花により種子を形成します。また、地上部が枯れたり切り取られても、残った地下茎から再生します。



茎：地面の中には横に走る地下茎がある。地上へは高さ1～3mほど生長します

10

オオハンゴンソウの除草方法

☆ポイント

- ・ 開花する時期である7月前に除草すると種子が形成されず有利
- ・ 地下茎から再生するので、地下茎ごと引き抜く



地下茎

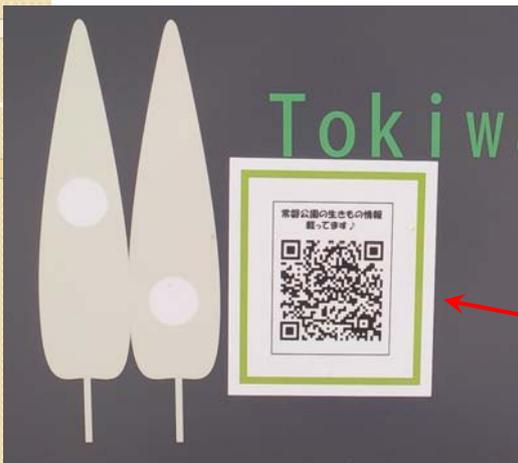
株立ちしているような形状
ですので、広範囲を掘り起
こす必要はありません。

スコップ等で比較的容
易に引き抜けます。

※安全に十分注意のうえ作業願います。

11

5 自然環境PR



このQRコードを読み取ることで、常磐公園の自然環境を紹介した
パンフレットのページへ移動します。
気軽に常磐公園の自然の一端を知ることができ、より楽しく散策し
てもらうことを目的としています。

12



まとめ

- 1) 意見など
- 2) 次回の予定について
 - 日時：平成30年9月下旬を予定
 - 内容：市民協働による維持管理の内容検討等